

スキークラブニュース 2015年4月号

桜満開の便りはスキーシーズンの幕引きでもありますね。みなさんはどれだけ滑りましたか。さて、我がクラブは計画通り2回を無事に開催し、いよいよ設立30周年の記念年度に突入します。今号は、スキーツアーの報告、2015年度総会、新企画や30周年記念行事の進捗状況等のお知らせと盛り沢山です。各行事の出欠はがきも同封されていますので、期限までにご回答をお願いします。なお、今回は初参加の皆さんからたくさんの原稿を頂きました。ありがとうございます。どれも力作ぞろいで読み応え十分です。ただ、スペースの都合上、改行部分を一部詰めざるを得なくなりました。ごめんなさい！

① 今年は無事に2回開催できました！

スキーツアー報告！

2014年度岩原スキーツアー報告 実行委員長 矢部健三

去る1月23日(金)～25日(日)に、新潟県南魚沼郡湯沢町の岩原スキー場へのツアーを実施しました。参加者は、ブラインド9名、パートナー16名、キッズ1名の計26名。昨年同様、東京駅発着の新幹線で移動。宿はホテルアルパインでした。

24日(土)は天候に恵まれ、ABCDの4班に分かれてスキー。皆さん気持ちよくシュプールを描いていました。研修班の4名もお昼前には各班に合流してパートナーを初体験！夜も自由参加の懇親会で大いに盛り上がりました。25日(日)は、朝のうちガスって視界不良、グレンデに出られるかどうかやきもきましたが、参加者全員の行いの良さから、15分遅れのスタートで問題なく滑り出せました。この日はABCDEの5班に分かれ、ガンガン滑る体育会系の班もあれば、適宜休憩を挟んで甘いものを楽しむ班、お昼で早々に上がる班などそれぞれのペースでスキーを満喫。怪我人もなく、無事にツアーを終えることができました。パートナーの皆さん、ありがとうございました。そして、今回初めて参加して下さった市川さん、石渡さん、對馬さん、これからもどうぞよろしくお祈りします!!

2014年度岩鞍スキーツアー報告 実行委員 高野和男

昨年、首都圏の大雪により中止となりました岩鞍ツアーが、2015年2月14日(土)から16日(月)に、宿泊を「ロッジ かぶらぎ」として開催されました。参加者はブラインド12名、晴眼者25名の計37名により、午前8時に出発となりましたが、今回、残念ながら往路の横浜市福祉バスの抽選に漏れ、民間の貸し切りバスとなってしまいました。スキー場は1日目と2日目が雪混じりの天気でしたが、最終日は雲一つない青空でのスキーとなり、新雪の滑りと爽快感を満喫しました。2日目の懇親会では、担当者が用意したゲームのごく一部しかできないほどの盛り上がりで、笑いが止まらないほどの大盛況でした。最終日は、大きなケガも事故もなく予定より早めの横浜到着となりました。今回、横浜市の福祉バス抽選に片道が漏れてしまい、参加費のアップとなりましたが、スキーツアーには、不確定要素(福祉バス使用料の変更・宿泊費・リフト券)があり、今後とも会員の皆様のご理解とご協力をお願いし、岩鞍スキーツアー報告といたします。

それぞれのツアーへ初参加の方々に感想の原稿をお願いしました。みなさん、素敵な感想文をありがとうございました。皆さんが感じてくださったことは、このクラブが一番伝えたかったことばかりで、今後の活動に自信がつきます。

岡部&オーエンの、岩原&岩鞍スキーツアーの感想です 岡部政志(ブラインド)

皆様今晚は、新人会員の岡部と、盲導犬のオーエンです。今回ようやくかながわブラインドスキークラブのスキーツアーに参加する事が出来ました。白崎さんと連絡を取り合ってから早1年と少し、いやー期待以上のすばらしいツアーでした。

今回僕は、スキー歴ほぼ0の状態での参加でした。正直言って岩原の1日目は全くお話にならない、歩けない。止まらない。曲がれない。のどうにもこうにもならないほどに自分でも悲しくなるほどの情けない1日でした。指導してくれた小幡さんも困り果てていたのではないのでしょうか。笑い。見えていない状態で斜面の雪の上で、スピードと、動きがコントロールできない事がどれだけ怖いのかを思い知りました。この恐怖感とともに立ち向かってコントロールするのはなかなか大変な作業でした。二日目、ようやく、少し気持ちを立て直して、最後の1本は、お、行けるかもと少し手ごたえを感じることができました。そして2月の岩鞍ツアー。人間、回数こなせばだんだん慣れてくる。岩原ツアーで教えて頂いた事が、ようやく体に落とし込んで、理解し始めたようでした。急な斜面以外は、だいぶコントロールができるようになって

(おー！俺って急に進歩したかも♪すごいじゃん。)

などと思えるぐらい楽しみながら滑る事が出来ました。岩原の1日目が0%だとしたら、岩鞍の最終日は、60%ぐらいうまくなった気がします。まだまだうまくなる気がするので自己採点は少し低め、残り40%分は来年以降のレベルアップ分。笑い。

こうなると来年はさらにうまく滑りたいと欲が出てきます。自分の思った通りに気持ち良くスピードをコントロールして滑ってみたいです。さらに今回のスキーツアーを通して、自分が普段少し緊張しすぎている事ともっと積極的になった方がいいのではないかと感じました。なぜならば、スキーを、滑っているとき、うまく滑れているときは、体がリラックスして、気持ちも前に向かってるときだからです。そんな事も再認識できてしまいました。

感想が自分のスキーの事ばかりになってしまいましたがすみません。今回は、自分の事でいっぱいでした。今になって思い返してみると、スキー初心者の僕と、盲導犬のオーエンに、とても皆さん親切に対応して頂いていたことが大変ありがたく思います。また実行委員の方々がツアーを、取り仕切って、楽しいツアーにしてくれた事を、大変ありがたく思います。岡部アンドオーエンは、ちょっと、全体の動きに遅れがちだったので次回は、今回の反省を生かしてもう少し早めの行動を心がけますね。又今回驚いたのは、晴眼者の皆さんのスキーに対してのサポートです。視覚障害者を、安全に滑らせるためのスキー中の指示に始まり、スキー後のカルテ記載、ミーティングただただ頭が下がる思いです。この晴眼者の皆さんの心のこもったサポートこそかながわブラインドスキークラブの大きな財産ではないかと思いました。

今回大変お世話になりました。また来年もスキーツアーどうぞよろしくお願いします。僕の担当になった方は、とっても大変な思いをされると思いますが。笑い。以上、スキーツアーの感想でした。

PS：来年は、マイブーツを用意して足回りを固めてさらなる高みへ。スキー板は、どうしようかな？考え中。

僕の事もよろしくだワン！来年は、夜の飲み会にご主人を連れていくかもだワン。(オーエン)

岩原スキーツアーに参加して 市川健太(パートナー)

私は今回、ボランティアではなくパートナーと呼ばれ、「一緒に滑って楽しかったよ！」という言葉をもらってとても感動しました。確かに最初は親切心から参加を決意しましたが、実際に滑っている時はブラインドスキーヤーに自分を投影して、本当に一緒になって滑っていたのです。私の言葉一つで、気持ちよく滑ることも、下手をすると事故に遭ってしまうこともある中で、私を信じて滑ってくれたブラインドスキーヤーはまさに対等なパートナーです。私も一緒に滑って楽しかった！

スキー経験はそれなりにあり、今思えばブラインドスキーヤーを見たこともありましたが、一緒に滑るのは初めてでした。会社の知り合いの実行委員から、「あなたが参加すれば、ブラインドスキーヤーが1名多く参加できる！」と声をかけられ、1ヵ月前に参加を決めました。周囲にブラインドがいなかった私は、祖母と伯父がブラインドだった妻から初歩的なレクチャーを受けただけで事前情報も無く、内心ドキドキしながら東京駅で合流し、新幹線のドアで早く乗り込もうと強引に鼻先を突っ込んできたアイメイト(盲導犬)のオーエン君を見て「今回は盲導犬を連れた参加者もいるのか！」と驚くありさまでした。岩原スキー場は初めて滑るスキー場でしたが、仮に指示を失敗しても挽回できそうな幅広バーンだったため、リフト上から簡単に観察しただけで片斜面などの斜度変化を詳細に把握せず、後でガイドに苦勞することもありました。ガイド初心者4名は最初に研修を受け、研修生同士で片方が目をつぶり、もう片方がガイドをする訓練などを繰り返しましたが、目からの情報が無いと前方の様子や自分の滑走速度がこんなにも分からず不安になるのかと改めて認識し、ガイドの責任の重大さを感じました。私はこの研修が始まる前、「ガイドなど簡単にできるだろう」という楽観的な考えをしていましたが、それをここで捨て去り、ブラインド、晴眼、みなさんの指導を謙虚に受け入れ、自分の特徴である声の大きさを活かそうと決意して、いよいよ実際にブラインドの方と一緒に滑り始めたのです。初日の豊田さんと2日目の臼田さん、お二人にそれぞれお話しを伺うと、技量だけでなく、スキーに対する考え方も異なっていて、意向をどうやって反映すべきかととても悩みました。そこで「気持ちよく滑りたい」という共通した言葉を拡大解釈して、「安全が確保できればスピードアップ！」を貫きました。リーダーはハラハラしっぱなしだったようですが、お二人とも風を切って滑る感覚を喜んでくれ、結果的には良かったと思っています。今回のスキーでは、コースの状況を確認し、斜面の変化や混雑度、目標地点までのコースを描くことなど、普段は無意識で処理していた時に怠惰になりがちな転瞬の判断を言葉にして伝えるため、まさに五感を研ぎ澄ませて臨みました。こんなに周囲に注意しながらグレンデを滑ったのは子供の頃以来かもしれません。「右」「左」「止まれ」だけでなく、とにかくガイドが途切れないように大声を出していたこともあり、1本1本がとても充実していました。このところスキーへの思いが煮詰まっていた、惰性で滑っていた自分の心に大きな風穴があいた気分です。みんなと一緒に滑れて、新しい世界が広がりました！本当にありがとうございます。そして、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

2月の岩鞍ツアーに参加して 小平幸絵(ブラインド)

今年、このクラブに入会し、初めてスキーツアーに参加しました。私は高校生の頃から友人や家族と年に2から3回のペースでスキーへ行っていました。グレンデのヒンヤリしたピンと張った空気感が好きで、その中をスピードを出して滑るのが大好きでした。

社会人になって、前より見えにくくなってきて、前の人を追っかけて滑るものの、シュプールが違うのか??コースアウトして、少し低くなっているところに落ちたり、リフトの乗り降りがプレッシャーになったり「みんなに迷惑かけちゃいけないなー」なんて、なんとなく気が重くなってきて、いつの間にか楽しめなくなってきました。そしてスキーから離れていきました。10年も！今回、ツアーに参加し、昔私が行っていたように、前にサポートの方に滑ってもらい更に後ろからも声をかけていただくという方法で滑らせていただきました。「なんと贅沢。人手ばかり取り申し訳ないなー」と思いつ

つ。始めは10年のブランクと、初めてのカービング板（昔は、板は長くて細くて今とは全然違うものでした・・・）に戸惑いましたが、前を滑ってくださる方も後ろをついてくださる方もそれぞれ適切な指示を出してくださるので安心してどんどん調子に乗って滑ってしまいました。「おー。滑れるじゃん」と自分でもちょっと満足。v(・・・)v

こんな風にまた滑り出した私のスキー時間。カルテにどんな風に滑りたいとか、自分の滑りで直したいところがあるか等を記載する時、自分の悪い癖や、へんなフォームを直すということに頭が回っていなかったことに気づきました。いつも、誰かについていくことに精一杯だったんですね。きっと余裕もなかったんだと思います。よく考えたらこんなに安心してスキーするのは初めてでした。2日目は、左足に比べ右足が浅くしか曲げられない癖を修正すべく、前走者、後走者さんにご協力いただき徹底的に調整！！ずいぶん、まともになったように思えました。前後ろからの声にすごく励まされました。3日目は、天気もばっちり。もうすっかり雪に鳴れ、1本1本、のびのび滑りました。最後なんて、何とも名残惜しい感じでした。ツアーを通して、自分の事ばかり考えて思いっきり楽しんですごさせていただきましたが、こんなに快適に過ごせたのは準備して下さった実行委員の皆さんと、参加していただいたサポートの皆さんのおかげと本当に感謝しています。ありがとうございました。私の、スキー熱は復活し、来年まで続きそうです。また来シーズンツアーに参加させていただこうと思います。今後とも、よろしくお願いします。

あらたな生きがいを見つけました 石渡 素子(パートナー)

今年、初めて、かながわブライндスキークラブのスキーツアーに参加し、ガイドをしました。目の不自由な方のスキーの誘導を、トランシーバーなどを使用し、方向を指示するスキーです。場所は新潟県の岩原スキー場。自身初めてのスキー場なので、まずはグレンデを把握しなくてはと思いました。でも、間違えて志村さんに呼び戻されることも^^；

午前中は志村さんにガイド初心者4名が研修を受けました。フリー滑走でどれだけ滑れるか。また、研修生同士で、2:2になって、片方が目をつぶり、片方がガイドをするというのを何度かやりました。簡単かと思いきや、目をつぶった私が船酔い状態に。普通に滑っているつもりが、登っていたり。こんなにも感覚がわからなくなるのだと、初めて認識しました。そこから、私に務まるかどうか、不安でした。最初は、川添由紀ちゃんのガイドを後方からしました。ブルートゥースやシーバーを使用しました。最初から、お互い疎通がうまくいき、ゆきちゃんからも、『とても初めてとは思えないほど上手なガイドですよ』と言ってもらえました。そして、1日の滑走が終わり宿の前に来たときは、ゆきちゃんを怪我なく1日宿へお送りすることができて、ホッとして泣きそうでした。そして、安心して初日と同じ状態で二日目に入り、藤田功三さんをガイドしました。ガイドの仕方は十人十色なのに、私は、前日のうまくいったことそのままやろうとしたのが、藤田さんにたくさん転ばせてしまったり、軽い衝突を起こしてしまったりと、大変なご迷惑をかけることに。それでも、藤田さんは怒らず、優しく私の研修にお付き合いくださり滑って下さいました。カルテを拝見していたにもかかわらず、私が雪上で実行出来なかったことに、自分で歯がゆくなりました。それでも、藤田さんが、私に無言にならないように、何か声をかけて欲しいと言って下さったお陰で、「今、いい感じですよー」などと言いながら二人で滑りだすと、不思議、だんだんと、私も緊張感が溶けて、藤田さんも滑りやすくなったとおっしゃって下さいました。初心者の私に皆さんが優しく教えて下さったことで、人生で初めての経験はとても輝かしいものとなりました。実は、このツアーにくる前日までの1週間、スキーヤーの知り合いと、考えたことのない様な小さな考えの相違で、相手から毎日責められ、私はスキーが嫌いにもなりかけていました。そんな中で参加した今回のツアー。来て、本当に良かったです。

おかげさまで、私の新たな人生が始まったような気がします。これも、皆さまのおかげです。本当にありがとうございました！次回も頑張りたいと思います。これから、どうぞ宜しくお願いいたします。

ブラインドスキー岩鞍ツアーの初参加感想 富岡恵知子

「スキー滑りたい」との思いで、軽く申し込んだ今回のツアー。先輩方の手慣れた行動には敬服すると共に、自身の未熟さを痛感させられた3日間となりました。行動が先行しなければ事故に繋がってしまう事は、理解していてもなかなか対応できないもどかしさがありました。機会があれば、また、この貴重な体験を生かし、もう少しお役に立てるようにしたいと思います。皆様にははじめてにもかかわらず温かく受け入れて頂き、感謝しております。ありがとうございました。

富岡章二

15年ぶりに尾瀬岩鞍グレンデスキーしました。国体が開催されるグレンデですのでダンヒルも起伏があり素晴らしいコースでした。3日目の晴天が2日目だったら最高のスキーツアーでした。ブラインドの方と始めて前走で中回りのカービング滑りをミルクウェイでしました。他のボーダー/スキーヤーとの接触のないコース取りを最優先し、ブラインドの方が遅れることなくスキー板にリラックスして乗り、滑られたので少しお手伝い出来たかなと思っています。夕食後、部屋に戻ると生ビールの酔いで寝てしまい、夜の懇親会に参加しませんでした。申し訳ありません。

ブラインドスキーツアーに初参加して 對馬一倫(パートナー)

この度初めて、岩原で行われたスキーツアーに参加しました。スキーは、大好きで札幌に住んでいた頃、スキークラブに所属して指導員を目指していました。しかし、仕事の関係で内地(?)に戻って、スキーに行くのが、年に1、2回程度になり、さらにこの14年間、全くスキーを履いたことがありませんでした。

そんな私が、今回、ブラインドスキーという機会を通して、再び雪上に立つことができました。

ツアーに参加するまでは、特別支援教育や障害者スポーツに関わっていることが多いので、ブラインドスキーのことも案外簡単に考えていました。

でも、それは甘い考えだったと、初日の研修を受けて知りました。グレンデの状況の説明、斜面の様子、周囲のスキーヤーやボーダーの位置や滑りまでを把握しながら、ブラインドスキーヤーに、次の方向やターンのタイミングを的確に伝えなければならないことは、これまで経験したことのない判断力が求められました。午後からは、不安と緊張の中、先導という方法でのガイドを行いました。前方や横からのスキーヤーの動きに注意を払いながら、自分自身のスキー技術を思い出しつつ、声を出し続けました。ブラインドスキーヤーの動きまで十分に注意が至らず、かえって滑りにくかったのではと、大いに反省しました。

後方からのガイドも経験しました。グレンデの状況や周囲のスキーヤーなどの動きは伝えられたものの、後方からのガイドは、先導するよりもさらに高度なことが求められました。常に、先行するブラインドスキーヤーの板の方向やエッジの効き方、姿勢やバランスのとり方まで、細かな部分までを把握しながら、進む方向を伝えていかなければならないことが求められました。「前方にボーダーが座っています」と伝えたのに、次の瞬間、ボーダーが立ち上がり動き出す、上からスキーヤーが来るなーと思っているうちに、滑って行こうとする方向に、ボーダーが横から入ってこようとするなどなど、滑り終わるまで、常に想定外のことがばかりでした。

そんな緊張の連続でしたが、滑り終わってみると、これまでにない爽快な充実感を感じました。スキー場で飲んだ生ビールがおいしかっただけではありません。これまで経験したスキーは、自分だけの滑りを満足させるだけのものでした。しかし、ブラインドスキーは、ブラインドスキーヤーとガイドと

がコミュニケーションを常に取り合いながら協力し合うことで、はじめて安全に楽しく滑ることができるのだと考えます。

ブラインドの方にとっては、経験の浅い相手を信頼して滑ることは、私以上に不安だったと思います。でも、そんな態度を全く感じさせることもなく、常に寛大な態度で受け入れてくれました。そうしたブラインドの方との関わりが、私にとって今までに経験したことのない充実感に大きくつながっていたのではないかと思います。ぜひ次回も参加し、今度はブラインドスキーヤーに、少しでも安心や楽しさを味わってもらえるようなガイドをしたいと思います。

貴重な経験をありがとうございました。

両ツアーの会計報告を下記に掲載します。

2015年岩原ツアー 会計報告

2015年岩鞍ツアー 会計報告

会計担当：射場正行

収入の部	参加費	¥29,000 x 26	¥754,000
	宴会参加費	¥20,000 x 1	¥20,000
	合計		¥774,000
支出の部	宿泊費		¥339,220
	交通費		¥271,980
	リフト代		¥92,500
	傷害保険		¥14,948
	諸雑費 (通信費、手土産、備品宅配等)		¥13,017
	返金		¥9,532
	合計		¥741,197
収支合計			¥32,803

会計担当：小幡次男

収入の部	参加費(徴収分)	¥31,000 x 37	¥1,147,000
	岩原余剰金	¥32,803 x 1	¥32,803
	寄付金	¥10,600 x 1	¥10,600
	銀行利息	¥22 x 1	¥22
	合計		¥1,190,425
支出の部	宿泊費		¥578,600
	交通費		¥159,910
	リフト代		¥242,700
	傷害保険		¥20,350
	役員交通費等 (岩原分含む)		¥69,752
	諸雑費 (通信費、手土産、備品宅配等)		¥26,648
	返金		¥45,400
	合計		¥1,143,360
収支合計			¥47,065

注：余剰金の処理に関しては実行委員会交通費を岩鞍ツアーと按分する事、また返金に関しては、一人当たり¥1,000未満となることから、岩鞍ツアー会計に寄付する事を参加者からの賛同を得たので、岩鞍ツアー会計で処理する事となった。

<実行委員会から岩原ツアーにご参加の皆さまにお尋ねです>

ツアーは無事に終了しましたが、実は一枚カルテが戻っておりません。

心当たりの方で、お手元に鈴木勝さんのカルテをご存じ、あるいはお持ちの方は実行委員の志村までご連絡ください。

② 12月研修会開催報告

開催日時：2014年12月7日(日) 13:30~16:30

開催場所：ライトセンター 第1講習室(A・B)

参加者：ブラインドB10名、晴眼者17名、合計27名

開催内容

今年度は「安全に滑るために」をテーマに、8月に「夏から始めよう スキーの体力づくり」を目指しストレッチの研修、秋は中止になりましたが「楽しく歩いてトレーニング」と、それぞれの体力作りを進めてきました。そしてスキー本番前は、より具体的な安全に楽しく滑るスキーに繋がるよう、以下の研修を実施しました。

◎第1部は、白崎正彦さんによるスキー誘導方法の一例として、新機種のブルーツウーストランシーバーの操作方法を学び、実際に双方向の通信を体験しました。

この新しいトランシーバーは、2人の通話以外に、3人、4人の通話が可能となります。また、咽喉マイクを使用することで、風などの雑音が少なくなることや、ブラインドが近づきすぎた時に起きていた混線などが起こりにくいという利点があります。

しかし、今回の研修では残念ながら3人での通話までは体験することができませんでした。

操作方法が複雑なこと、器具も毎年のようにバージョンが変化していることなど、実際にゲレンデで使用するにはまだまだ課題が残りました。

今後は実際に使用するブラインド個人がしっかりと使用方法を熟知して行く必要があると感じました。

◎第2部は、スキーツアー実行委員志村好枝さんの進行で、出席者からそれぞれの意見を聞きながら、パートナー、サブパートナー、ブラインド、それぞれの役割や注意点、コミュニケーションの大切さなどを細かく再確認しました。

また、実際のスキー滑走中に不安や危険と感じた事例を上げながら、具体的な対応方法を話し合い、安全に滑るために、ブラインド、晴眼者、ツアー実行委員の立場で意見交換を行いました。

その後ツアーで実際に用いられているスキーカルテに記載する情報の聞き取りを、ブラインドとパートナーの組を作り行いました。

視力に関して、どのくらい見えるか、どんな時に見えにくいのか、声掛けの方法で注意してほしいことは、ゲレンデの情報はどの様な事を教えてほしいか、自分はどんな滑りがしたいか、など詳細な聞き取りが行われました。

これらの情報は今後のスキーカルテのさらなるバージョンアップに反映させていただきます。

限られた時間の中でしたが、有意義な研修が行えたと思います。

◎忘年会：研修後は、二俣川相鉄ライフ4階 コミュニティサロンで忘年会を行いました。

参加者は、ブラインド7名、晴眼者15名、合計22名で、楽しく飲んでおしゃべりをしました。

※企画係からのお願い

現在スキークラブでは年2回ほど研修を行っています。

これまでに、体力促進に繋がるもの、スキー技術、道具に関すること、安全に滑るために注意することなどをテーマに研修を行ってきました。今後もスキーに関することで役に立つもの、健康な身体作りにつながるもの、単に楽しそうで試してみたいことなどを企画したいと思っています。

気になっている運動や、体験してみたいもの、知りたいことなんでもかまいません。会員の皆さんからも広く情報をお寄せいただくと大変助かります。

今後の研修を考える上で、参考にさせていただきますのでご意見お寄せください。ご協力お願いします。

連絡先は事務局までお願いします。

企画係 岡由美

この研修会から初めてクラブの行事に参加してくれた石渡さんが、ここでも感想文を書いてくださいました。石渡さん、1年に2回も原稿を書いてくださったのは石渡さんが初めてかもしれません。本当にどうもありがとうございました!!

12月7日(日)二俣川ライトセンターにて、私は初めての研修会に参加させていただきました。私は、今回から、ブラインドスキーヤーの方のガイドを初めてします。

ミーティングの冒頭では、白崎さんからお言葉をいただき、その中で、ブラインドスキークラブの発起人となった方が、研修の当日亡くなったという知らせがあり、全員で黙祷をしました。

今回は、安全面を第一にガイドをしようというコンセプトで、ブルートユースの設定・使用方法を3グループほどに分かれてやりました。

まず、二人で設定をしてみました。説明用の映像と手元にある実物のタイプが少し違うものだったため、設定の仕方に少しとまどいました。二人での設定まではほぼ完璧にできるのですが、そこから、3人目を設定しようとするとう全員が戸惑っているようでした。

ヘルメットも用意されて、幾人かは、実際にヘルメットをかぶっての設定の仕方もやっているグループもあったようです。

また、ブラインドの方に晴眼者がインタビューをし、カルテを作成するという作業も、初めてやりました。私は、おかちゃんにインタビューをしました。ブラインドの方のスキーのレベル、滑り方の好み、ガイドする時の留意点などを聞き取りました。楽しかったです。

そして、研修終了後には、勇姿で夜の部のミーティングへと向かいました。

この研修によって、雪上でのガイド向上にも期待出来そうです。

今シーズンは、岩原スキー場と岩鞍スキー場でのツアーがあるとのことで、私は、両方に参加予定です。初めてのことはばかりですので、皆さんの足手まといにならぬよう、予習復習を頑張りたいと思います。

スキーが三度の飯より好きです。これからどうぞ宜しくお願いいたします。

石渡素子

③ 30周年記念行事実行委員会からのお知らせとお願い

【サロン実行委員会】 報告 串田直樹

既に皆さんには前号(2014年11月号)で、『サロン』開催を2015年10月3日(土)午後から開催する旨お伝えしました。サロン実行委員会では引き続き第4、5、6回の実行委員会を開催し、『サロン』開催の具体化に向けた取り組みを行ってきました。以下にその取組の概要と決定された事項を記します。

○第一部 他団体との交流

交流の場として、他団体をお呼びして「シンポジウム」を開催し、それぞれの団体が抱える問題・課題を討議、議論します。

その準備のためブラインドスキーを実施されている四団体(*)の関係者の方々にお会いしてサロン開催の趣旨をご理解いただくとともに、各団体の活動状況等のお話をうかがいました。

(*) だいすきクラブ(2014/11/9) シー・ハイル(2014/12/21)

サバイフ&TABS(2015/1/20) 富山三ツ星山の会(2015/2/22)

また、サバイフ&TABSのスキーツアー見学(2015/3/14)をさせていただきました

○第二部 懇親会

横浜の夜景を眺めながら「かながわブラインドスキークラブ」「この仲間だから・・・」の30年を振り返る歓談の場とします。”きすな30”実行委員会より提供されるこれまでの30年の写真や映像もお楽しみいただきます。

≪30周年記念行事 “サロン” 実施要領≫

第一部 シンポジウム

日時：2015年10月3日(土) 13:00~16:30

場所：ライトセンター

第二部 懇親会

日時：2015年10月3日(土) 18:00~20:30

場所：横浜市健康福祉総合センター10階

ふれあいショップH×3(エイチ・バイ・スリー)

サロン実行委員会からのお願い

第二部の懇親会では現会員のみならず旧会員を含め、多くの方々にお集まりいただきたいと思っています。

“この人に逢いたい！” “この人を呼んで欲しい！” という旧会員の方

がいらっしゃいましたら、その方のお名前と連絡先(分かる範囲で結構です)をクラブ事務局までお知らせください。

事務局；白崎

“きずな30” 実行委員会報告 高野和男

“きずな30” 実行委員会では現在、文字データ・写真・ビデオなどの分類と整理を、先に作成した年表を元に行っています。今後、10月3日開催予定の『サロン』において、掲示物とディスプレイによる公開を目指し編集作業を行います。また、編集された内容はクラブのホームページにも掲載予定です。以上報告いたします。

30周年記念ツアーの準備が着々と進行 ツアー実行委員会 矢部健三

今年度も1月に岩原、2月に岩鞍と2回のツアーを実施しました。詳細はそれぞれの報告をご参照ください。

また、上記ツアーの開催と並行して30周年記念ツアーについても準備を進めてまいりましたので、現時点で決まりました事項をご報告いたします。

日程：2016年2月27日(土)~29日(月)

場所：キロロリゾート

宿泊：ホテルマウンテン

交通：飛行機&バス

詳細については今後検討を継続していきます。あくまで予定ですので、今後の検討によっては開催時期や場所を変更する場合がありますので、予めご了承ください。随時クラブニュースでお知らせしますので、どうぞ期待!

④ 2015年度第1弾企画発表!!

例年、秋の事業として実施してきましたイベントは、クラブ設立30周年事業開催に伴い6月に開催します。よこはま動物園ズーラシアは今年の春から「アフリカのサバンナ」がオープンして、面積、展示内容ともに日本一の動物園になりました。広く整備された園内を多種多様の動物とふれあい、約4Kmを楽しく歩きながら トレーニングを行います。園内は、一部を除き盲導犬を連れて入園できます。水飲み場、トイレ場などのマップも備えられており、家族と一緒に安心して参加ができます。また、今回はNPO法人ミニシティ・プラスの協力を得て、県内で幅広く地域の活性化に参加している小学校高学年から高校生の「特命子ども地域アクター」と一緒に、当日の企画を作成して視覚障害者の誘導、園内の解説などを経験してもらいながら、世代を超えた交流と福祉の理解を高めることを目指します。

子どもたちの企画で「楽しく歩いてトレーニング」のお知らせ

- 開催日 2015年6月6日(土) 予備日：6月7日(日)
開催場所 よこはま動物園ズーラシア
集合場所 (A)午前9時30分 JR中山駅南口 改札前
(B)午前9時30分 相鉄線鶴ヶ峰駅 改札前
解散場所 ズーラシア・にれのき広場 午後4時解散予定
参加費 ズーラシアまでの交通費は各自の負担になります。入場料金は参加者の人数によって異なります。

コースは動物園バスロータリー前から、にれのき広場からアジアの熱帯園、亜寒帯の森、アマゾンの密林、アフリカの熱帯雨林、アフリカのサバンナなどを回ります。家族や友達にも声をかけて参加をしてください。

※昼食についてはレストランもありますが、かなり混雑が予想されます。できるだけ持参していただくと助かります。

(※)申込葉書の集合場所(A)(B)のいずれかを○で囲ってください。

(※)予備日を設けているため、参加者は「6日のみ参加」「6日または7日でも参加」「7日のみ参加」のいずれかを○で囲ってください。>

(※)ブラインドで参加される方は、同封の回答葉書に入れた切れ目の対角線の角を切り取って返送してください。参加できない方は角を切り落とさないで返送してください。

(※)送期日 5月25日(月)

企画担当：小林功弘あて

⑤ 2015年度総会と懇親会のお知らせ

日時： 2015年 5月17日(日) 14:00~17:00
会場： 神奈川県ライトセンター 2階 第1講習室AB

内容：

＜議事＞

1. 2014年度 事業報告・決算報告
2. 2015年度 事業計画・予算案
3. 役員の補充について
4. 30周年事業について
5. その他

＜意見交換＞＊

総会終了後の懇親会、今年は二俣川駅から3分、試験場へのバス通りに面した松屋の4階「団欒炎」(045-360-8010)で会費4000円を予定しています。

注意；回答ハガキについて

- ①総会案内を掲載したこのクラブニュースは全員に封書の墨字版と従来から送付している点字もしくはメールも同時送付致しますが、回答はお手数ですが全て同封した2枚の返信回答ハガキで回答をお願いします。
- ②今回は総会・懇親会回答ハガキとズーラシア回答ハガキの2枚を同封しました。
- ③ブラインドの総会回答のハガキは表面の下側に回答者の住所・氏名を書き込んだシールを貼って有りますがズーラシアの回答ハガキには表面下側に回答者の住所・氏名を直接書き込みましたのでお間違いの無いようお願い致します。
- ④ブラインドの方は出欠回答ハガキ下表面(宛名の書かれた面)左に切れ目が入っていますので、その角を左下にして右上の対角線上の角が総会と懇親会の両方に参加する方、左上が総会だけに出席する方、右下が懇親会だけに参加する方として、1センチ程度斜めに切り取ってください。総会に欠席される方は出欠回答ハガキの文書面に押印又はサインをいただければ議長に対する委任状とさせていただきます。
- ⑤ズーラシアの回答は選択回答となりますのでお手数ですが、集合場所と参加可能日についてそれぞれのアルファベットを○で囲んでください
尚、同封の出欠回答ハガキは4月30日までに投函ください

⑥ 新会則の配布について

昨年の総会で、規約の改定を提案し承認されましたが、いくつかの表記訂正をご指摘いただきました。その修正を行い今回皆様に配布をいたしますので、ご一読ください。

⑦ 事務局からのお知らせ

*メール配信について

1年以上のテスト配信を経て2014年度から「クラブニュース」のメール配信を実施しましたが未だに様々な問題が発生して、ご迷惑をおかけし申し訳ありません。具体的には事務局での見落としや、誤削除そして事務局宛に送信されたアドレス変更などのメールが迷惑メールに振り分けられて届かない、あるいは、いただいたメールが文字化けして発信者を特定できなかったことなどが考えられます。

そこで、「クラブニュース」をメール配信に切り替えるかあるいは、点字版・墨字版での郵送が良いか、または両方の媒体で受け取りたいかを、今回と次回のニュースで再確認しますので、とりあえず今回については総会の返信ハガキで回答をお願いします。

メール配信を希望と両方希望に○をした方は表面のメールアドレス欄に現在使用のアドレスをご記入ください。

ホームページのリニューアルに合わせてアドレス変更の予定しております。

なお、メールが届かないときや一部分しか送られない、文字化け、などのトラブルがあったときは直接事務局宛にお知らせください。

⑧ 会計からのお願い

毎回のお願いで恐縮ですが、会費の納付が会員数約100名中60名強と非常に低く、今後の運営に支障を来しつつある状況です。そこで、今回は未納の方に振込用紙を同封しました。4月27日(月)までに振込をお願いします。なお、行き違いがあった場合にはご容赦ください。

『クラブニュース編集・発行』

発行責任者 : 渋谷清二

広報Team : 福田 川添 高野 プラス白崎

<http://www.kanagawa-blindski.com/>

事務局 白崎